

■光明皇后 皇族外初の皇后。聖武天皇に働き掛けて、仏教に基づく慈悲の施策を実行、国分寺や大仏等も実現させた。

こうみょうこうごう

大宝律令・701= 生。藤原不比等の第三女、母は橘三千代。

持統天皇没・702= 1歳：

幼少にしてすこぶる聡敏、その美しさが光りかがやくようだというので光明子とも称された。

平城京遷都・710= 9歳：

光明子入内・716=15歳：皇太子首皇子の妃となり、

養老律令・718=17歳：第1子阿倍内親王(孝謙天皇)を生む。

・719=18歳：

藤原不比等没 720=19歳：

聖武天皇即位 724=23歳：首皇子が即位して聖武天皇夫人となり、

渤海交流始・727=26歳：皇子を生み、直ちに皇太子に立てたが、

渤海交流始・728=27歳：天死した。同じ年聖武天皇のもう1人の夫人県犬養広刀自に安積親王が誕生したため、藤原氏は天皇家の外戚関係が絶えることを恐れ、それを防ぐ手段として、それまでは皇后が夫帝の死後女帝として即位するのが慣例であったことに着目し、安宿媛の立后を画策した。

長屋王の変・729=28歳：そのため反対派の長屋王を誣告によって排除し、三千代の出身地河内国古市郡から瑞亀を献上させて天平と改元、ついに皇族以外から出て皇后となった。皇后宮職を設置した。湯沐2000戸のほか1000戸の封戸が給せられ、父不比等の遺産をも相続、旧宅内に皇后宮職を設置、

・730=29歳：ここに施薬院、悲田院を付置して飢病の徒を療養。千人洗垢の伝説を残す浴室もこの皇后宮内にあったという。こうした社会事業の基調になった仏教への帰依は、氏寺としての興福寺五重塔の建設や邸内の角寺(海竜王寺)の創設に始まり、母三千代の死と自身の病臥を契機により深められ、

風土記完了・733=32歳：母三千代が亡くなると、興福寺西金堂を造営、

・736=35歳：両親の菩提を弔うため玄昉が将来した「開元釈教録」による一切経の書写を始める。

藤原四卿没・737=36歳：疫瘡の流行で兄弟の藤原四卿を失ったが、

橘諸兄右大臣 738=37歳：阿倍内親王が先例のない内親王の皇太子に立てられ、

藤原広嗣の乱 740=39歳：

741=40歳：天皇の国分寺創建の詔發布に、亡父の遺産の封戸3千戸を諸国国分寺へ施入し、丈六仏像造料にあてる。

大仏造立の詔 743=42歳：\*天皇が盧舎那大仏像造願の詔を發布するが、これらの事業はいずれも皇后の勅めによるといい、

・744=43歳：「楽毅論」(正倉院)を書写。

行基初大僧正 745=44歳：5年振りに平城へ遷都した年、皇后宮は宮寺とされた。

・746=45歳：聖武天皇・元正太上天皇とともに、金鐘寺(後の東大寺)に行幸、盧舎那仏の燃灯供養を行う。

大仏鑄造始・747=46歳：病臥の聖武の快癒を祈念して新薬師寺の造営を開始。宮寺はのち法華寺と改められ大和国分尼寺となる。

孝謙天皇・749=48歳：\*聖武天皇とともに、行基を請じて受戒。聖武天皇が讓位すると、皇太后となって紫微中台を設置し、甥の藤原仲麻呂を長官に登用し、娘の孝謙天皇に代わって実質的に皇権を行使した。

大仏開眼・752=51歳：

鑑真来日・754=53歳：来朝した唐僧鑑真から聖武・孝謙とともに東大寺大仏殿前で受戒。

・755=54歳：一切経の書写は約20年かけて「五月一日経」(光明皇后願経)として完成する。

聖武天皇没・756=55歳：聖武太上天皇が没すると、その遺愛の品々を東大寺に献納したが(正倉院宝物)、なかには自筆の「楽毅論」や「杜家立成」も含まれている。

橘奈良麻呂変 757=56歳：藤原仲麻呂が大炊王を立太子させ、反対派との対立が激化すると、両派の衝突回避に努力したが、それも空しく橘奈良麻呂の変が起きる。

孝謙天皇讓位 758=57歳：孝謙が讓位し淳仁天皇が即位すると、百官僧綱の上表により中台天平貞真仁正皇太后の尊号をうけた。

光明皇后没・760=59歳：\*仲麻呂の専権がピークとなった年、没した。大和国添上郡佐保山に聖武と並べて葬られた。

「万葉集」に歌数首がある。